

講義コード	1J003012
講義名	アスレティックトレーナー概論Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J1-2402.S
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山口 由美子	指定なし

講義の目的

本講義時では、アスリートを取り巻くさまざまな環境のもとアスレティックトレーナーが知っておくべき諸問題の基礎をスポーツ現場の最新情報とともに学びます。生死に関わる現場に遭遇した場合、チームや遠征にアスレティックトレーナーとして帯同する場合に必要な医学知識を学ぶことが目的です。またグループワーク、相手への伝え方を工夫することを通じてプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の向上を目的に課題発表を行います。

到達目標

アスレティックトレーナーになるために必要とされる基礎知識の習得、スポーツ現場で対応できる一次救命処置を実施できる。グループワークやプレゼンテーションを通して、コミュニケーション能力の向上。

授業計画表

授業計画

1. 自己紹介・救急処置 (CRP/AED)①
2. 救急処置 (CRP/AED/RICE)②、アスリートの健康管理①
3. アスリートの健康管理 ②
4. アスリートの内科的障害と対策 ①
5. アスリートの内科的障害と対策 ②
6. アスリートの外傷・傷害と対策 ①
7. アスリートの外傷・傷害と対策 ② (課題の発表と検討1)
8. アスリートの外傷・傷害と対策 ③ (課題の発表と検討2)
9. アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画①
10. アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画②
11. スポーツによる精神障害と対策
12. 特殊環境下での対応
13. アンチドーピング
14. コンディショニングの手法① (ストレッチング、icing)
15. コンディショニングの手法② (テーピング、マッサージ)

成績の評価

学期末試験、課題の提出と発表にて成績評価します。

自己学習

専門用語が多く出てきますので、事前に次回授業範囲に目を通しておいてください。

履修上の注意

本科目は（財）日本体育協会公認スポーツプログラマーを受験する学生も、当該科目を履修しなければなりません。当該科目はその養成講座の共通科目『共通Ⅰ - 4スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅰ、共通Ⅲ - 10スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅱ』の内容を含みます。

テキスト

「日本体育協会公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅲ」

※指定テキストはデザインが同じでも内容が変更になることがあるため、最新版を購入して受講すること。

オフィスアワー

月曜～木曜日

昼休み・16:20～17:00

実習等で学外に出ている場合もあるので、あらかじめアポイントメントを取ることをおすすめします。また学生が多く来室するため相談内容によっては別日程で時間を確保しますので申し出て下さい。

研究室

研究・診療棟 4階 415研究室

授業用E-mail

yumiko@kansai.ac.jp

講義コード	1J004012
講義名	アスレティックトレーナー概論Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	5 時限
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J1-2403.ST
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山口 由美子	指定なし

講義の目的

本講義時では、アスレティックトレーナーとして必要なスポーツと心の関係やスポーツに関わる訴訟・法律を学びます。アスリートが効果的な技術習得を行う時、最高のパフォーマンスを発揮する時、モチベーションを高める時など様々な場面でアスレティックトレーナーにも心理学的な知識が必要とされます。また近年スポーツに関わる訴訟が注目されています。ここでは過去の判例をあげ法律に触れることでアスレティックトレーナーとしてリスク管理の必要性を再認識することが目的です。2年次より開講されるアスレティックトレーナー専門科目で学ぶ内容を1年次で概説し、基礎知識の習得を目指します。履修者はグループワーク、相手への伝え方を工夫することを通じてプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の向上を目的に課題発表を行います。

到達目標

アスレティックトレーナーになるために必要とされる基礎知識の習得、スポーツ指導者が知っておくべき法律理解。グループワークやプレゼンテーションを通して、コミュニケーション能力の向上。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス、スポーツと心
2. スポーツと心 ・スポーツにおける動機付け
3. コーチングの心理 (技能の練習と指導)
4. コーチングの心理 (プレイヤーの個人指導と心理的問題)
5. コーチングの心理 (チームの指導と心理的問題)
(コーチング評価)
6. メンタルマネジメントとは・リラクゼーション
7. イメージトレーニング
8. 集中力のトレーニング
9. 心理的コンディショニング
10. プレッシャー、あがり、スランプの克服
11. 指導者のメンタルマネジメント ①
12. 指導者のメンタルマネジメント ②

- 13. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任①
- 14. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任 ②
- 15. スポーツと人権・課題の発表と検討

成績の評価

学期末試験、課題の提出と発表にて成績評価します。

自己学習

専門用語が多く出てきますので、事前に次回授業範囲に目を通しておいてください。

履修上の注意

本科目は（財）日本体育協会公認スポーツプログラマー、JATIを受験する学生も、当該科目を履修しなければなりません。当該科目はその養成講座の共通科目『共通II-2 スポーツと法、共通II-3 スポーツの心理Ⅰ、共通III-6 スポーツの心理Ⅱ』の内容を含みます。

テキスト

「日本体育協会公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅱ・Ⅲ」

※指定テキストはデザインが同じでも内容が変更になることがあるため、最新版を購入して受講すること。

オフィスアワー

月曜～木曜日

昼休み・16:20～17:00

実習等で学外に出ている場合もあるので、あらかじめアポイントメントを取ることをおすすめします。また学生が多く来室するため相談内容によっては別日程で時間を確保しますので申し出て下さい。

研究室

研究・診療棟 4階 415研究室

授業用E-mail

yumiko@kansai.ac.jp

講義コード	IJ010011
講義名	コミュニケーション学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1308
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 桑原 昭吉	指定なし

担当教員

桑原 昭吉

講義の目的

医療に従事する者がクライアントとの人間関係を良好に保つこと。

到達目標

人間力(信頼)・論理力(尊敬)・対話力(安心)の三要素の向上をはかる。

授業計画表

授業計画

1. コミュニケーション学とは挨拶から
2. 自己診断とコミュニケーション力
3. 環境力と聞く力のコミュニケーション力
4. 体験学と自己表現のコミュニケーション力
5. 教育学と能力開発力のコミュニケーション
6. 言霊学と話す力のコミュニケーション
7. 学問と説得する力のコミュニケーション
8. 性格診断と自分を知るコミュニケーション力
9. 栄養学とイメージ力のコミュニケーション
10. 経絡循環と魂の開発力のコミュニケーション
11. 信仰心と生きる力のコミュニケーション
12. 「霊(魂)心・力・体」の思考について...宗教学
13. 「命学・卜学・仙学・医学・相学」とは...易学
14. 「望診・問診・問診・触診・脈診」の診断学...医学
15. 「祭・教・慣・造」の生活の原理とは...文化論

成績の評価

レポート提出とノート整理などにより評定評価を行う。

自己学習

「コミュニケーション力」斎藤孝著とプリントをよく読む。

履修上の注意

講義用のプリントを配布。平常の出席とノートを整理すること。

テキスト

特別になし

参考文献

「教育と魂の開発」(文芸社)桑原著・「コミュニケーション力」(岩波新書)斎藤著・「コミュニケーション学入門」(大修館書店)太田 他・「コミュニケーションのノウハウ・ハウ」野口著・「図解 話す力 聞く力」PHP研究所 高嵩・「ココの相性がわかる四魂診断」(中経出版)出口著・「論理的な話し方が面白いほど身につく本」(中経出版)茂木著・「特別講義・コミュニケーション学」(実業の日本社)藤巻著

講義コード	IJ014012
講義名	スポーツと健康
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1209.HS
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

担当教員

五十嵐 純

講義の目的

現代社会の発達は、快適な生活を私たちに与えてくれている反面、オーバーストレスや運動不足を引き起こしている。本講義では、ストレスや運動不足が肥満や動脈硬化などの生活習慣病の原因になること、また、日常生活や臨床の場で関わりの深い腰痛、高血圧、肥満などの成り立ちと運動との関わりについての知識を身につけることを目的とする。さらにスポーツはその実践方法によっては身体に悪影響を及ぼすことから、加齢とトレーナビリティ、スポーツ障害などを学び、基礎的な応急処置とその理論を習得する。

到達目標

健康や健康づくりを知り、実践できるようになる。
有酸素運動についての正しい知識を身につける。
スポーツによるけがと予防法を知る。

授業計画表

授業計画

1. スポーツとは、スポーツと健康、レクリエーションスポーツ
2. 健康の定義、健康を学ぶ意義、個人の健康と社会
3. ヘルスプロモーション、健康づくり施策について
4. 日本における健康づくり施策について
5. 健康日本21（第二次）の説明
6. 体力とは、行動関連体力と防衛関連体力
7. 有酸素運動と無酸素運動、エネルギー供給機構
8. 酸素摂取量、呼吸商、最大酸素摂取量、運動強度、心拍数、呼吸数
9. 有酸素運動に適した運動①（ウォーキング）、健康づくりとウォーキング
10. 運動強度について、使用する筋、下肢への衝撃
11. 酸素運動に適した運動②（ジョギング）
12. 有酸素運動に適した運動③（エアロビックダンス）
13. 有酸素運動に適した運動④（水泳・水中運動）

14. 肥満と減量、スポーツ活動に多いケガや病気(内科)
15. スポーツ活動に多いケガや病気(外科)

成績の評価

試験（100％）にて評価。なお必要に応じてレポート提出などを行い、総合的に評価する。

自己学習

学んだことを自分の生活の中で実践してみる。

履修上の注意

理論として理解することは大切なことであるが、それを普段の生活で実践するように心がけること。

遅刻、早退は1/3欠席として計算する。

担当者に伝えずに途中退席した者は欠席とみなす。

（財）健康・体力づくり事業財団が認定する「健康運動実践指導者」を受験する学生および、
（財）日本体育協会公認スポーツプログラマーを受験する学生は当該科目を履修しなければなりません。

詳しくは配布資料を参照して下さい。

テキスト

プリント配布

参考文献

「健康運動実践指導者用テキスト」

健康・体力づくり事業財団

「公認スポーツプログラマー専門科目テキスト」

日本体育施設協会

オフィスアワー

木曜の昼休み

研究室

診療・研究棟4階 401研究室

授業用E-mail

igarashi@kansai.ac.jp

講義コード	1J047012
講義名	医学概論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	J1-2301
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 近藤 哲哉	指定なし

担当教員

近藤哲哉

講義の目的

医学史及び現代における医療問題を理解する。

到達目標

医学、医療に歴史、問題点や意義について自分なりの考え方をもち、問題意識をもって医療に携われるようになる。

授業計画表

授業計画

1. 西洋医学史 (1) 古代から近世
2. 西洋医学史 (2) 19世紀から現代
3. 東洋医学史 (1) 中国医学史
4. 東洋医学史 (2) 日本医学史
5. 最先端医学
6. 電磁気と医学
7. 戦争と医療
8. 宗教と医療
9. 生殖医療
10. 難病の延命治療、終末器医療
11. 臓器移植
12. パターナリズムとインフォームドコンセント
13. 胃瘻と人工呼吸器
14. 補完代替医療
15. 人口問題と医療

成績の評価

4択のマークシート問題の期末試験の点数と、平常点を合計して、6割以上なら合格です。追再試験もマークシートで行います。

自己学習

講義の進行が遅いと感じる人は、プリントの表の下にある注釈を読んでください。
通学の電車内の時間も有効に使いましょう。

履修上の注意

プリントの、スクリーンに映っている部分よりも上下左右が見たい場合は、その方向を指差すジェスチャーで教えるか、090-2078-2292にCメールを送るか電話してください。画面をスクロールします。質問がある場合、挙手かCメールか電話をして下さい。講義以外の時刻に質問がある場合は、下記にメールして下さい。

テキスト

なし。

参考文献

なし。

オフィスアワー

水曜日午前中

研究室

診療研究棟303

授業用E-mail

kondo0724538409@kansai.ac.jp

講義コード	1J065012
講義名	英語表現法Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1302
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 佐々木 敏光	指定なし

担当教員

佐々木 敏光

講義の目的

時事英語を読むことを通して、国際的なものの見方、考え方を身につける。

到達目標

- ①時事英語のスタイルに慣れる。
- ②背景知識を持つ。
- ③英語の構文を確認しながら、本文の内容を読み取る。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス
2. Chapter 1 いわゆるゾウ人間は、その人の通称と同名の病気（‘ゾウ人間病’）には罹っていないと博士は語る
3. Chapter 2 試験で韓国は大騒動
4. Chapter 3 最高裁は、裁判員候補者295,000人に通知する予定である
5. Chapter 4 女子選手達は強烈な印象を残した
6. Chapter 5 日本、WBC（ワールドベースボールクラシック）の優勝を祝う
7. Chapter 6 「日本の教育システムは費用対効果が高い」とOECD発表
8. Chapter 7 国連、死刑制度で日本を非難
9. Chapter 8 政府は国内の沿岸ごみに取り組む方針
10. Chapter 9 オバマは日本を「偉大なパートナー」と呼ぶ
11. Chapter 10 16歳のイギリス少年、単独世界一周航海に発つ
12. Chapter 11 ハリケーン‘アイク’の被害者、食料・水・ガソリンを求める
13. Chapter 12 病院の犠牲者の夫がはっきりと意見を述べる
14. Chapter 13 地球にやさしい食品キャンペーンが（アメリカ）合衆国で極めて大きな影響を及ぼしている
15. Chapter 14 クローン専門家、絶滅種の蘇生に一步近づく

成績の評価

定期考査50%，復習テスト30%，平常点20%で評価します。語学は継続して学習することが大切です。

自己学習

英文の構造に注意しながら，大意を読み取る努力をしてください。わからない語句は辞書で調べておくことが大切です。

履修上の注意

- ①復習テストを実施します。
- ②授業に辞書（電子辞書可）を持ってきてください。

テキスト

「Let's Enjoy the News in English大学生の時事英語入門」（南雲堂）佐藤哲三，佐藤勇治，荒巻龍也，池田賢治，毛利史生，小手川巧光

参考文献

講義の中で紹介します。

オフィスアワー

木曜日昼休憩の時間。

研究室

1号館2階 講師控室。

講義コード	1J066012
講義名	英語表現法Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1303
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 佐々木 敏光	指定なし

担当教員

佐々木 敏光

講義の目的

時事英語を読むことを通して、国際的なものの見方、考え方を身につける。

到達目標

- ①時事英語のスタイルに慣れる。
- ②背景知識を持つ。
- ③英語の構文を確認しながら、本文の内容を読み取る。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス
2. Unit 1 研究： DNAが夜型か朝方かを定める可能性
3. Unit 2 日本は「民宿」の増加にどう対処すべきか
4. Unit 3 外国人の道案内に役立つ新しい地図記号
5. Unit 4 ホテル、宿泊客の健康に配慮したオプションを拡張
6. Unit 5 大学、学生の正しい食事習慣の奨励に努力
7. Unit 6 ディカプリオと法王、環境について議論
8. Unit 7 不快なゴキブリ型ロボットが災害に役立つ可能性
9. Unit 8 電機メーカー再編成計画、見直しが求められる可能性
10. Unit 9 田舎での生活を選ぶ若者が増加
11. Unit 10 イチロー、通算4,257安打でローズ越え
12. Unit 11 英国、遺伝子編集実験を容認
13. Unit 12 スポーツ、国や文化の隔たりを埋める助けに
14. Unit 13 119番への緊急通報、70%が不必要とみなされる
15. Unit 14 大学の研究、「白人化」されたハリウッドを発見

成績の評価

定期考査50%，復習テスト30%，平常点20%で評価します。語学は継続して学習することが大切

です。

自己学習

英文の構造に注意しながら、大意を読み取る努力をしてください。わからない語句は辞書で調べておくことが大切です。

履修上の注意

- ①復習テストを実施します。
- ②授業に辞書（電子辞書可）を持ってきてください。

テキスト

「Meet the World-English through Newspapers-2017 メディアで学ぶ日本と世界2017」（成美堂）
若有 保彦

参考文献

講義の中で紹介します。

オフィスアワー

木曜日昼休憩の時間。

研究室

1号館2階 講師控室。

講義コード	1J139012
講義名	国語表現法
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1301
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 南山 かおり	指定なし

担当教員

南山 かおり

講義の目的

この講義は、コミュニケーション手段の一つとしての「文章表現」について論じる。文章による伝達は、今や現代社会において、大きな比重を占めるようになってきた。私たちは、日常生活の様々な場面で、日本語によって文章を綴ることを避けることはできない。それは、医療の現場においても、また同じである。カルテや紹介状の作成等、現場では常に正確で明瞭な文書の作成を要求されるだろう。よって、講義の中では、自らの意図するところを的確に表現し、よりよい文章を書くためには何が必要か、身近な事例を通して考えてゆくことにする。

到達目標

的確な言語表現を実現するため、まずは、その表現媒体である「日本語」についての知識を深め、興味を喚起することを第一の目標とする。さらにその上で、本当によい文章とは何か、正確に伝えるには何が必要か、について、自身の基準を持てるようになること、それが第二の目標である。このことによって、実際の表現の場においても、常に慎重に自らの日本語を見つめ、より深いコミュニケーションを実現する力が身につくものとする。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス — 授業の概要と成績評価について
2. Ⅰ. ことばに敏感になる — 1. 語感をつかむ
3. Ⅰ. ことばに敏感になる — 2. 「思う」と「考える」
4. Ⅰ. ことばに敏感になる — 3. 「ある」と「いる」
5. Ⅰ. ことばに敏感になる — 4. 語源を意識する
6. Ⅰ. ことばに敏感になる — 5. 派生語に注目する
7. Ⅰ. ことばに敏感になる — 6. 漢字と漢語
8. Ⅰ. ことばに敏感になる — 7. 漢語の特徴
9. Ⅱ. 文の構造を考える — 1. 「ハ」と「ガ」はどう違うか

- | | | |
|-------------------|---|----------------|
| 10. II. 文の構造を考える | — | 2. 「ハ」の働き |
| 11. II. 文の構造を考える | — | 3. 「ガ」の働き |
| 12. II. 文の構造を考える | — | 4. 「ハ」の文、「ガ」の文 |
| 13. III. ことばは変化する | — | 1. ことばの揺れを観察する |
| 14. III. ことばは変化する | — | 2. 「ら抜きことば」の問題 |
| 15. III. ことばは変化する | — | 3. 情報の使い方 |

成績の評価

レポート提出50%・レポート内容40%・平常点10%
(なお、詳細については、授業時に伝える)

自己学習

講義中に紹介した参考図書や、その他の日本語に関する本を読む等して、平生から「日本語に対する興味・理解を深める」ことを心がける。

履修上の注意

課題のレポートは必ず提出すること。未提出の場合は単位を認定できない。
また、不必要な私語や途中退席等、授業の妨げになる行為は慎むこと。指示を守れない者は出席を認めないので注意すること。

テキスト

毎回、授業時にプリントを配布。

参考文献

- 「日本語練習帳」 (岩波新書) 大野晋
- 「日本語はおもしろい」 (岩波新書) 柴田武
- 「私家版 日本語文法」 (新潮文庫) 井上ひさし
- 「日本語はなぜ変化するか」 (笠間書院) 小松英雄

講義コード	1J177011
講義名	心理学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1203.H
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 亀 節子	指定なし

担当教員

亀 節子

講義の目的

「人間とはどのような生命体であり、いかに感じ、行動し、生きているのか」という多岐にわたる心理学のテーマの中から、本講義では特に「感情」と「個性」をとりあげることによって、人間理解を深め、広い精神を養っていくことを目指す。

到達目標

人間理解をとおして、自らも周りの人もよくしていこうとする意欲を身につけること。

授業計画表

授業計画

1. I 「自らを知る」 & 「他者を知る」
2. II 主な心理学者の理論 (フロイト&アドラー)
3. II 主な心理学者の理論 (ユング、その他)
4. II 主な心理学者の理論 (マズロー、その他)
5. III 感情の心理学 (感情論の略史)
6. III 感情の心理学 (感情の科学)
7. III 感情の心理学 (情動と身体反応)
8. IV 痛みの心理学
9. V 運動指導の心理学的基礎 (感情と行動の適応的变化)
10. V 運動指導の心理学的基礎 (個別カウンセリング方法)
11. VI 遺伝と環境 (学習と記憶)
12. VI 遺伝と環境 (本能の役割)
13. VII コミュニケーション論 (親子の心理学)
14. VII コミュニケーション論 (イメージ論&交流分析)
15. VIII 古人(いにしえびと)の人間観と528Hz

成績の評価

期末時の筆記試験(自筆ノート持ち込み可能)の結果を主とするが、受講態度も平常点として評

価対象とする

(試験70%・平常点30%)。

自己学習

普段から、自らの人格に対する純な向上心を培っておくことが求められる。

履修上の注意

自分自身で感じとって考える、という課程の大切さを認識しながら受講すること。

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

参考文献

講義の中で適宜紹介する。

オフィスアワー

金曜日 16時から17時

研究室

管理棟2階 204研究室

授業用E-mail

skame@kansai.ac.jp

講義コード	IJ187022
講義名	人体の機能Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	人体の構造と機能
科目ナンバリング	J1-2004.T
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高岸 美和	指定なし

講義の目的

生理学 (Physiology) は万人に共通する身体の仕組みについて探求する学問である。この学問領域は基礎医学の中でも特に重要な科目の一つで、あらゆる西洋医学のベースとなる領域である。柔道整復師においてもその重要性にかわりはない。一般に生理学は、動物性機能と植物性機能に大別することができるが、「人体の機能Ⅰ」では神経系・運動器系・感覚器系を中心とする動物性機能の正常状態の機能について学習する。

到達目標

人体の正常機能を理解することで、今後学ぶ異常（病気）の状態が理解できるよう知識を身につける。

授業計画表

授業計画

1. 生理学の基礎 1
2. 生理学の基礎 2
3. 生理学の基礎 3
4. 生理学の基礎 4
5. 生理学の基礎 5
6. 生理学の基礎 6
7. 神経(神経の基本的機能) 1
8. 神経(神経の基本的機能) 2
9. 神経(興奮の伝導と伝達) 1
10. 神経(興奮の伝導と伝達) 2
11. 神経(末梢神経系) 1
12. 神経(末梢神経系) 2
13. 神経(末梢神経系) 3
14. 神経(自律神経系) 1
15. 神経(自律神経系) 2
16. 神経(自律神経系) 3
17. 神経(姿勢と運動の調節) 1
18. 神経(姿勢と運動の調節) 2

19. 神経(中枢神経系) 1
20. 神経(中枢神経系) 2
21. 神経(中枢神経系) 3
22. 神経(中枢神経系) 4
23. 筋(筋肉の種類と特徴)
24. 筋(骨格筋収縮のしくみ) 1
25. 筋(骨格筋収縮のしくみ) 2
26. 筋(筋収縮のエネルギー)
27. 筋(長さと張力の関係)
28. 筋(心筋,平滑筋)
29. 感覚(感覚の種類)
30. 感覚 (特殊感覚)

成績の評価

期末試験 (100%) により評価する。

自己学習

講義が終わった範囲はテキストを十分に読み込み理解を深める。

履修上の注意

本科目は必修科目であり、国家試験に関係する重要科目であるため、毎回の授業で出席を確認し、遅刻3回につき1回の欠席とする。また、テキストは必ず持参すること。その他の受講上の注意事項については、随時講義時間の中で伝達する。

テキスト

「生理学 改訂第3版」(南江堂)
(社)全国柔道整復学校協会 監修 根来英雄・貴邑富久子 著

オフィスアワー

前期 : 月曜日 (16:40 ~ 18:00)

後期 : 金曜日 (16:40 ~ 18:00)

研究室

診療・研究棟4階 415研究室

授業用E-mail

takagishi@kansai.ac.jp

講義コード	IJ188012
講義名	人体の機能Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	人体の構造と機能
科目ナンバリング	J1-2005.T
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高岸 美和	指定なし

講義の目的

生理学 (Physiology) は万人に共通する身体の仕組みについて探求する学問である。「人体の機能Ⅰ」の授業科目で紹介したように、生理学は医学のベースとなる科目で、コメディカルに共通して重要な学問領域である。この生理学は動物性機能と植物性機能に大別することができるが、「人体の機能Ⅱ」では植物性機能、つまり、循環器系、呼吸器系、消化器系、排泄器系、生殖系、内分泌系の機能について学習する。

到達目標

人体の正常機能を理解することで、今後学ぶ異常（病気）の状態が理解できるよう知識を身につける。

授業計画表

授業計画

1. 血液（血液の組成、血球の働き）
2. 血液（血液凝固、血液型）
3. 循環（循環中枢、心臓の働き）
4. 循環（循環の調節、血圧）
5. 呼吸（呼吸運動とその調節）
6. 呼吸（ガス交換とガス運搬）
7. 消化と吸収（消化器系と消化酵素）
8. 消化と吸収（消化管ホルモン、肝臓の働き）
9. 栄養と代謝と体温（基礎代謝、体温調節の仕組み）
10. 排泄（尿の生成）
11. 排泄（体液の調節、排尿と蓄尿）
12. 内分泌（内分泌腺とホルモンの一般的性質）
13. 内分泌（ホルモンの種類と作用）
14. 生殖（生殖器機能、性ホルモン）
15. 骨の生理学（骨の形成と代謝）

成績の評価

期末試験（100%）により評価する。

自己学習

講義が終わった範囲はテキストを十分に読み込み理解を深める。

履修上の注意

本科目は必修科目であり、国家試験に関係する重要科目であるため、毎回の授業で出席を確認し、遅刻3回につき1回の欠席とする。また、テキストは必ず持参すること。その他の受講上の注意事項については、随時講義時間の中で伝達する。

テキスト

「生理学 改訂第3版」(南江堂)

(社)全国柔道整復学校協会 監修 根来英雄・貴邑富久子 著

オフィスアワー

前期 : 月曜日 (16:40 ~ 18:00)

後期 : 金曜日 (16:40 ~ 18:00)

研究室

診療・研究棟4階 415研究室

授業用E-mail

takagishi@kansai.ac.jp

講義コード	IJ189011
講義名	人体の機能実習
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	人体の構造と機能
科目ナンバリング	J1-2006
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高岸 美和	指定なし

講義の目的

「人体の機能Ⅰ・Ⅱ」で学習した内容をさらに深く理解することを目的とする。

到達目標

「人体の機能Ⅰ・Ⅱ」で学習したもののなかからいくつかの分野について実際に機器などを用いて計測することで、人体の正常機能についての体験的理解が得られるようにする。また、実習レポートを作成することで、実習で得た現象に対して、なぜこのようなデータが得られるのだろうか？という点について、基礎科学的な考察を能動的・主体的に行うことで科学的な思考の基礎的な素養を身につけられるようにする。

授業計画表

授業計画

1. 実習講義 総論：生理学実習の意義
2. 実習講義 各種装置の理解とその操作方法
3. 実習講義 皮膚感覚：感覚点と受容器電位、感覚の伝導路
4. 実習講義 皮膚感覚：痛点と触圧点・温点・冷点とその受容器と受容体についてと実習装置の使用法
5. 実習① 皮膚感覚：感覚点の測定
6. 実習② 皮膚感覚：二点弁別閾の測定
7. 実習講義 データの扱い方・レポートの書き方
8. 実習講義 視覚の伝導路とその仕組み
9. 実習③ 網膜における盲点の位置測定
10. 実習講義 呼吸運動と肺気量分画 1
11. 実習講義 呼吸運動と肺気量分画 2
12. 実習講義 実習装置の使用法
13. 実習④ 正常呼吸運動と肺気量分画測定
14. 実習⑤ 擬似的異常呼吸運動（閉塞性・拘束性肺疾患）と肺気量分画測定
15. 実習全体をとおしてのまとめ

成績の評価

期末試験（100%）により評価する。但し、この試験は実習後のレポートを全て提出し合格する

ことを受験要件とする。

自己学習

人体の機能Ⅰ・Ⅱで学習した内容を事前に再確認しておく。

履修上の注意

実際に手を動かした上で、生理学としての理論が本当であるかを実体験する科目なので、実習時には積極的に手を動かして、しっかり体験するように心がけること。

テキスト

随時プリントを配布する。

オフィスアワー

前期 : 月曜日 (16:40 ~ 18:00)

後期 : 金曜日 (16:40 ~ 18:00)

研究室

診療・研究棟4階 415研究室

授業用E-mail

takagishi@kansai.ac.jp

講義コード	IJ194022
講義名	人体の構造Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	人体の構造と機能
科目ナンバリング	J1-2001.HT
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

担当教員

五十嵐 純

講義の目的

ヒトの体は解剖学的な構造と多くの生理機能から成り立っている。本講座は前期に開講されることから、人体の正常な構造のうち、特に細胞、組織および運動器系について学び、人体に対する知識を深め、医学、柔道整復学、健康スポーツ学を学ぶ上での基礎とする。

到達目標

人体を構成する細胞や組織とともに、正常な人体の骨、関節、筋についての知識を身につける。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス 人体解剖学概説
2. 細胞および組織
3. 骨学 (体幹)
4. 骨学 (上肢)
5. 骨学 (下肢) ①
6. 骨学 (下肢) ②
7. 骨学 (頭蓋)
8. 関節①
9. 関節②
10. 中間テスト
11. 筋学 (頭頸部)
12. 筋学 (体幹)
13. 筋学 (上肢) ①
14. 筋学 (上肢) ②
15. 筋学 (下肢)

成績の評価

中間試験 (50%)、期末試験 (50%) とし、必要に応じてレポート提出などを行い、総合的に評

価する。

自己学習

解剖学の名称になれることが大切なので、授業の前に教科書を読んで予習しておくこと。

履修上の注意

- ・この講座で学ぶ知識は、医学、柔道整復学だけでなく、健康スポーツ学を理解するためには無くてはならないものである。したがって、自分が将来行うであろう臨床、運動指導への展開を考慮しながら積極的に学んでほしい。
 - ・教科書は系統別に記されているが人体は総合的に存在している。したがって個々の知識を統合し全体的に理解するよう心がける。
 - ・学習は名称の暗記に片寄り単調になりやすいが、「記憶する」だけでなく「理解する」ように心がける。
 - ・遅刻は1回を1/3欠席として計算する。
 - ・「健康運動実践指導者」を受験する学生は当該科目を履修しなければなりません。
- 詳しくは、配布資料を参照して下さい。

テキスト

「解剖学」 (医歯薬出版)
社団法人全国柔道整復学校協会監修

参考文献

「イラスト解剖学」 (中外医学社) 松村讓児 著

オフィスアワー

木曜の昼休み

研究室

診療・研究棟4階 401研究室

授業用E-mail

igarashi@kansai.ac.jp

講義コード	1J195022
講義名	人体の構造 II
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	3 時限
科目分類・分野名	人体の構造と機能
科目ナンバリング	J1-2002.H
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸村 多郎	指定なし

講義の目的

系統解剖学的区分に基づき、器管の形態や構造の特徴について理解できるようにテキストとオリジナル資料で講義します。人体の形態や構造の特徴について受講生が体系的かつ正確に理解することを目的とします。

到達目標

下記講義計画の内容について正確な理解を目指します。また講義後も自立学習が出来ることを目指します。

授業計画表

授業計画

1. 受講ガイダンス・総論
2. 消化器系①
3. 消化器系②
4. 消化器系③
5. 消化器系④
6. 消化器系⑤
7. 消化器系⑥
8. 呼吸器系①
9. 呼吸器系②
10. 泌尿器系①
11. 泌尿器系②
12. 生殖器系①
13. 生殖器系②
14. 内分泌系①
15. 内分泌系②
16. 循環器系①
17. 循環器系②
18. 循環器系③
19. 循環器系④
20. 循環器系⑤

21. 神経系①
22. 神経系②
23. 神経系③
24. 神経系④
25. 神経系⑤
26. 神経系⑥
27. 神経系⑦
28. 感覚器系①
29. 感覚器系②
30. 感覚器系③

成績の評価

筆記試験(100%)で評価します。

自己学習

解剖学は人体の構造に関する知識を学習する科目であるため、各自、参考図書や模型、視聴覚教材を利用した予習と復習が必要です。予習では必ずテキストを一読して用語の確認、復習では指導したノートの作り方に則り講義内容を整理しましょう。

履修上の注意

1. 必修科目であるため、毎回の授業で出席を確認する。
2. 遅刻は3回の累積で1回の欠席とみなす。
3. 配付プリントは原則、再発行しないので紛失しないこと。
4. 平穏な受講環境と円滑な授業進行を行うため、受講生は一定の受講マナー（私語・飲食・携帯電話の禁止,脱帽）を守ること。（詳細は授業中に説明する）
5. 学籍番号順に前詰めで着座すること。

テキスト

『解剖学』 社団法人全国柔道整復学校協会監修（医歯薬出版）、
資料としてプリントを配布します。

参考文献

- 『日本人体解剖学』 金子丑之助 原著（南山堂）
『プロメテウス解剖学 コア アトラス』 坂井建雄 監訳（医学書院）

オフィスアワー

在室時はいつでも。

研究室

診療研究棟 4階 407

授業用E-mail

tomura@kansai.ac.jp

講義コード	IJ196021
講義名	人体の構造実習
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	人体の構造と機能
科目ナンバリング	J1-2003
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

担当教員

五十嵐 純

講義の目的

医学、柔道整復学や健康スポーツ学を学ぶ上で必須である解剖学の知識をさらに深く理解し、今後学ぶ様々な教科の学習および臨床や健康スポーツ指導に役立てられることを目的とする。

到達目標

ヒトの骨格標本、筋模型、全身模型、顕微鏡を用いた学習を行うとともに、実際の人体を用いた生体観察を行い、人体の構造Ⅰ、Ⅱで学んだ解剖学の知識を立体的に理解することを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 骨学実習の説明と体幹の骨（脊柱と胸郭）①
2. 体幹の骨（脊柱と胸郭）②
3. 上肢の骨①
4. 上肢の骨②
5. 下肢の骨①
6. 下肢の骨②
7. 頭蓋骨①
8. 頭蓋骨②
9. 骨学実習試験
10. 頭頸部の筋
11. 腹部、背部の筋
12. 上肢の筋①
13. 上肢の筋②
14. 下肢の筋①
15. 下肢の筋②
16. 骨の体表解剖①
17. 骨の体表解剖②

18. 筋の体表解剖①
19. 筋の体表解剖②
20. 循環器系の体表解剖①
21. 循環器系の体表解剖②
22. 神経系の体表解剖①
23. 神経系の体表解剖②
24. 体表解剖のまとめの授業
25. 筋学・体表解剖学試験①
26. 顕微鏡実習（消化器系）
27. 顕微鏡実習（呼吸器系）
28. 顕微鏡実習（生殖器系）
29. 顕微鏡実習（内分泌系）
30. まとめ授業

成績の評価

課題（スケッチなど）の合格を成績評価の前提条件とし、骨学実習試験^{50%}、筋学・体表解剖学試験^{35%}、組織学試験^{15%}にて評価。なお、課題が未提出であったり不合格のままであった場合の成績評価は不合格となる。

自己学習

人体の構造Ⅰ、Ⅱの内容をもう一度確認し、理解しておくこと。

履修上の注意

人骨標本、骨模型、筋模型、プレパレートなどは大切に扱い、不真面目な態度で接することは厳禁とする。

特に人骨標本は敬虔な気持ちと態度で接し、実習の前に手洗いおよび実習前後で黙祷をすること。

教科書や参考書は平面で描かれているが実際の人体は三次元の立体である。また、人体は一人一人異なっているのが当たり前である。そのことを基本におき、総合的、立体的に人体を理解する。

- ・骨学実習時は白衣着用のこと。
- ・骨学実習では人骨標本に対し敬虔な気持ちと態度で接すること。
- ・実習では色鉛筆を持参すること。
- ・遅刻は1回を1/3欠席として計算する。

テキスト

「解剖学」 （医歯薬出版）
社団法人全国柔道整復学校協会監修
「プロメテウス解剖学コアアトラス」 （医学書院）

参考文献

特になし

オフィスアワー

木曜の昼休み

研究室

診療・研究棟4階 401研究室

授業用E-mail

igarashi@kansai.ac.jp

講義コード	1J210011
講義名	整復学総論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学
科目ナンバリング	J1-3001
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎尾原 弘恭	指定なし

講義の目的

柔道整復学の基礎的な知識を学ぶ。

到達目標

柔道整復術の成り立ちを理解し、各論を学習していく上で必要となる基礎的な知識を習得すること。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス
2. 柔道整復師の現状
3. 柔道整復師の業務
4. 柔道整復師とは（概論）
5. 骨の構造
6. 骨の損傷①
7. 骨の損傷②
8. 骨の損傷③
9. 骨の損傷④
10. 骨の損傷⑤
11. 関節の構造
12. 関節の損傷①
13. 関節の損傷②
14. 関節の損傷③
15. 関節の損傷（脱臼）①
16. 関節の損傷（脱臼）②
17. 筋の損傷①
18. 筋の損傷②
19. 腱の損傷①
20. 腱の損傷②
21. 神経の損傷
22. 血管リンパ、皮膚の損傷

23. 評価
24. 整復法①
25. 整復法②
26. 軟部組織の初期処置
27. 固定法
28. 後療法①
29. 後療法②、指導管理
30. まとめ

成績の評価

筆記試験（定期試験期間中に実施）、平常点（授業内での小テストやレポートの提出）により総合的に評価して判定する。

- ・筆記試験80%
- ・平常点20%

自己学習

必ず復習すること。

履修上の注意

毎回出欠を確認し、遅刻・無断退出³回につき¹回の欠席とする。テキストの他、配付された資料は毎回持参すること。

その他履修上の注意はガイダンスで説明する。

テキスト

「柔道整復学 理論編」（南江堂） 公益社団法人 全国柔道整復学校協会

参考文献

「解剖学」（医歯薬出版） 公益社団法人 全国柔道整復学校協会

「運動学」（医歯薬出版） 公益社団法人 全国柔道整復学校協会

オフィスアワー

水曜日午後

研究室

診療・研究棟3階³¹⁰研究室

授業用E-mail

ohara@kansai.ac.jp

講義コード	1J221012
講義名	生涯スポーツⅠ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1207.HST
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

担当教員

五十嵐 純、相澤慎太

講義の目的

慢性的な運動不足による体力の低下は身体にゆがみを引き起こし、様々な疾病の原因となることが知られている。生涯スポーツⅠではこれらの疾病の予防・改善に有効なスポーツ・運動を適時実践し、生活の中に意識的に運動を取り入れて行けるようにすることを目的とする。

到達目標

それぞれのスポーツの、意味を理解する、楽しめるようになる、生涯にわたって実践して行けるようになる。

授業計画表

授業計画

- 【合同授業】（五十嵐、相澤）
ガイダンス 筆記用具を用意し、指定された教室に私服で集合し、選択種目を決定する。
第2週から1班：軽スポーツ・運動ゲームコース、2班スポーツコースとに分かれて実践する。
- 体力測定の実践①(筋力、筋持久力、柔軟性など)
- 体力測定の実践②(筋力、筋持久力、柔軟性など)
- 体力測定の実践③（身体組成、形態の測定）
- 体力測定の評価
- 1班：運動ゲーム
2班：バドミントンの実践①
- 1班：フライングディスク①
2班：バドミントンの実践②
- 1班：フライングディスク②
2班：バドミントンの実践③
- 1班：フライングディスク③
2班：バドミントンの実践④
- 1班：フライングディスク④
2班：卓球の実践①
- 1班：グラウンドゴルフ①
2班：卓球の実践②
- 1班：グラウンドゴルフ②
2班：卓球の実践③
- 1班：ミニバレーボール①
2班：ソフトボールの実践①
- 1班：ミニバレーボール②
2班：ソフトボールの実践②

15.1班：ミニバレーボール② 2班：ソフトボールの実践③
※ 天候により、授業内容を変更し体育館を使用することがある。

成績の評価

平常点50%・学習到達度30%・授業に対する取り組み状況20%にて評価。

自己学習

予習はいらないが、復習として、動きの再確認を行うこと。

履修上の注意

- ・スポーツ用具は大切に扱う習慣をつけること。
- ・服装は動きやすい、授業にふさわしいものを着用すること。
- ・体育館内は土足厳禁のため、体育館専用のシューズを用意すること。
- ・現金や貴重品の取り扱いには十分注意し、各自で管理すること。
(各自のロッカーや体育館の貴重品用ロッカーなど利用)
- ・ピアス、ネックレス、指輪、腕時計等の貴金属品は他人及び自己の危険防止のため身につけない。
- ・遅刻は1回を1/3欠席として計算する。
- ・「健康運動実践指導者」、「スポーツプログラマー」、「トレーニング指導者」を受験する学生は、当該科目は必須です。
詳しくは、配布資料を参照して下さい。

テキスト

特になし

参考文献

「健康運動実践指導者用テキスト」健康・体力づくり事業財団

オフィスアワー

木曜の昼休み

研究室

診療・研究棟4階 401研究室

授業用E-mail

igarashi@kansai.ac.jp

講義コード	1J222012
講義名	生涯スポーツII
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1208.HS
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

担当教員

五十嵐 純、相澤慎太、渡辺俊哉

講義の目的

筋力やバランス能力の低下が進むと行動が制限されるばかりでなく、転倒による骨折の可能性、ひいては歩行困難を来す可能性が高まってくる。生涯スポーツIIでは、体力の維持、増進に有効である様々なトレーニング、体操およびスポーツの実践を通して、心身の良好な状態を維持する知識と技能を学ぶとともに、スポーツの楽しみ方を身につける。

到達目標

それぞれのスポーツの、意味を理解する、楽しめるようになる、生涯にわたって実践して行けるようになる。

授業計画表

授業計画

- | | |
|---|-----------------------|
| 1. 【合同授業】（五十嵐、相澤、渡辺）
ガイダンス 筆記用具を用意し、指定された教室に私服で集合。（第2週から選択する種目を決めるので、必ず出席すること。）
【補強運動・スポーツコース】（担当：五十嵐、相澤） | 【太極拳】 |
| 2. 体操 | 2. 太極拳の基本 |
| 3. 補強運動の実践①（器具を使用しないトレーニング） | 3. 太極拳の基本 |
| 4. 補強運動の実践②（マシンを使用するトレーニング） | 4. 太極拳の基本 |
| 5. 補強運動の実践③（フリーウェイトを使用するトレーニング） | 5. 動作名：起 勢 （チーシー） |
| 6. 補強運動の実践④（アジリティートレーニング） | 6. 動作名：野馬分鬃（イエマフエンゾン） |
| 7. 補強運動の実践⑤（サーキットトレーニング） | 7. 動作名：倒巻肱（ダオジェンゴン） |
| 8. 補強運動の実践⑥（トレーニングプログラムの実践） | 8. 動作名：左攬雀尾（ズランヂェウイ） |
| 9. 卓球の基礎 ラケットの選択とボール遊び | 9. 動作名：左攬雀尾（ズランヂェウイ） |

ウI)	
10. フォアハンド、バックハンドで返球 ウI)	10. 動作名：右攪雀尾（ヨウランチ
11. フォアハンド、バックハンドのツツキ ウI)	11. 動作名：右攪雀尾（ヨウランチ
12. フォアハンド、バックハンドストローク ビエン)	12. 動作名：単 鞭 （ダン
13. いろいろなサーブ、スマッシュの説明 ショウ)	13. 動作名：十字手 （シーズー
14. ゲームの説明と実践 シー)	14. 動作名：収 勢 （ショウ
15. 卓球の実技試験	15. 総まとめ

成績の評価

平常点50%・学習到達度30%・授業に対する取り組み状況20%にて評価。

自己学習

予習はいらないが、復習として、動きの再確認を行うこと。

履修上の注意

- ・スポーツ用具は大切に扱う習慣をつけること。
- ・服装は動きやすい、授業にふさわしいものを着用すること。
（膝掛け、マフラー、ネックウォーマー（スポーツ用を除く）は不可）
- ・体育館内は土足厳禁のため、体育館専用のシューズを用意すること。
- ・現金などの貴重品の取り扱いには十分注意し、各自で管理すること。（各自のロッカーや体育館の貴重品用ロッカーなど利用）
- ・ピアス、ネックレス、指輪、腕時計等の貴金属品は他人及び自己の危険防止のため身につけない。
- ・遅刻は1回を1/3欠席として計算する。
- ・「健康運動実践指導者」、「JATI認定トレーニング指導者」を受験する学生は、当該科目は必須です。

詳しくは配布資料を参照して下さい。

テキスト

特になし

参考文献

「健康運動実践指導者用テキスト」健康・体力づくり事業財団
「公認スポーツプログラマー専門科目テキスト」体育施設協会

オフィスアワー

木曜の昼休み

研究室

診療・研究棟4階 401研究室

授業用E-mail

igarashi@kansai.ac.jp

講義コード	1J226012
講義名	生命のしくみ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1102
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 松本 弘	指定なし

担当教員

松本 弘

講義の目的

生命のしくみについては、最近、新聞紙上をにぎわす話題が多い。例えば、iPS細胞、ES細胞、ポストゲノム、遺伝子治療、組換え、DNA、形態形成、再生医療、生命倫理、環境倫理、バイオテクノロジーオートファジー等である。これらのことが、我々の生活にどうかかわってくるのか。特に医療系の道に進むものにとっては知らずに済むことは出来ない。

生命のしくみ（生物学）は、基本的には生物の共通性と生物の多様性について学習することである。共通性は、分子（DNA、タンパク質）、細胞、個体、エネルギー、自己複製（生殖、発生、遺伝）等である。一方多様性は、遺伝子の多様性、種の多様性、生態系の多様性等である。

以上の生物の共通性や生物の多様性の学習を通じて生物学的に探究する能力と態度を育てる。同時に生物学についての基本的な概念や原理・法則を理解し科学的な自然観を修得する。さらに最新の生物学の成果や知見についても理解する能力を育成する。

到達目標

1. 科学と科学の方法について細胞学の歴史を通して理解する。
2. 生態学や環境問題、生物の進化についての理解を深める。
3. 細胞の構造と機能、細胞の成分、細胞膜について理解する。
4. 酵素の働き、同化（光合成）、異化（呼吸）のしくみを理解する。
5. 細胞の増殖、動物の発生過程と形態形成のしくみを理解する。
6. 遺伝の法則とDNAの複製、形質発現の過程を理解する。
7. バイオテクノロジーとその利用について理解を深める。
8. 生体防御と免疫のしくみを理解する。
9. ヒトの感覚器と筋肉の収縮、ホルモン系、神経系について理解を深める。

授業計画表

授業計画

1. 科学の方法と細胞学の歴史
2. 個体群の生態学、生態系
3. 環境問題

4. 生物の進化
5. 細胞の構造と機能、細胞の成分、細胞膜
6. 酵素とその働き
7. 代謝（異化、同化）
8. 細胞の増殖（細胞分裂）
9. 発生と形態形成
10. 遺伝の法則とDNA、ゲノム、ポストゲノム等
11. DNAの複製と形質発現
12. バイオテクノロジーとその利用
13. 生体防御、抗原と抗体、体液性免疫、細胞性免疫
14. ヒトの感覚器、筋肉の収縮
15. ホルモン系、神経系

成績の評価

レポート提出、授業態度などの平常点で約30%、筆記試験で約70%の総合判定により評価します。

自己学習

毎回の授業には予習・復習をして臨むこと。

履修上の注意

指定された座席に座ること。自分のノートを作ること。配布されたプリントは整理しておくこと。静穏な環境下で授業が進行するよう努力すること。授業中での飲食や携帯電話、居眠りなどは厳禁する。

テキスト

「スクエア最新図説生物」 （第一学習社） 吉里勝利監修

参考文献

必要に応じてその都度紹介します。

講義コード	1J229012
講義名	生命の化学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1104
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸田 静男	指定なし

担当教員

戸田静男

講義の目的

生体を構成する物質の構造および機能（はたらき）の基本を習得してもらう。そして、生体機能の関連性についても理解してもらう。

到達目標

生命を構成する物資の構造と機能（はたらき）を理解し、医療人としての基礎としてほしい。

授業計画表

授業計画

1. 人体の仕組み
2. タンパク質の構造
3. タンパク質のはたらき
4. 糖質の構造
5. 糖質のはたらき
6. 脂質の構造
7. 脂質のはたらき
8. 核酸の構造
9. 核酸のはたらき
10. 酵素の性質とはたらき
11. ビタミンの種類とはたらき
12. 水・無機質のはたらき
13. 栄養素の消化・吸収
14. 生体の恒常性を保つシステム
15. エネルギーの消費と供給

成績の評価

学期末試験で成績評価を行う。

自己学習

高校で化学を履修していない学生や不安のある学生に対しても習得できるように配慮する。受講後の復習を十分にやってほしい。質問は、大いに受け付ける。

履修上の注意

授業計画に従い授業を進めていくが、各項目と関連性なども講義していく。

テキスト

「イラスト 生化学入門 (栄養素の旅)」
相原英孝、大森正英ら著 (東京教学社)

参考文献

本学図書館にこれに関する数多くの書籍があるので、大いに参考にしてほしい。

講義コード	1J230012
講義名	生命倫理
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1201
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 武田 眞太郎	指定なし

担当教員

武田眞太郎

講義の目的

第二次世界大戦中のナチス・ドイツの生体実験に対する「ニュールンベルグ綱領」に端を発した生命倫理の基本姿勢、その後の近代医学の急激な進歩に伴って表面化してきた人間の生と死をめぐる諸問題を俎上に載せ、すべての人の基本的権利としての生存権、生活権、健康権とともに、医療の現場における患者の基本的権利がいかに保障されるべきかについて考究する。

到達目標

医療の担い手の基本的な資質である「患者の権利を尊び守る態度」の涵養を図る。

授業計画表

授業計画

1. わが国における医療の基本理念 — 「医療法」をめぐって
2. 世界保健憲章・世界人権宣言・経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約にみられる「健康権」の概念
3. アメリカおよびナチス・ドイツにみられた優生思想の社会的展開
4. 生命倫理の展開 — 医療の担い手の職業倫理と患者の権利
5. 先進医療と「生老病死」の場面での倫理
6. 「ヘルシンキ宣言」と「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」
7. インフォームド・コンセントと患者の自己決定権
8. 生殖補助医療の現状
9. 生殖補助医療と生まれる子どもの権利
10. 遺伝子診断・治療をめぐって
11. 脳死と臓器移植
12. 尊厳死をめぐって
13. 福祉の基本的な在り方と現状
14. 経済発展と生命倫理 — 事例からみた企業の社会的責任
15. 総括

成績の評価

定期試験（85%）および毎回提出のミニレポート（15%）により評価する。

自己学習

必要に応じて適宜に指示する。

履修上の注意

授業中の私語、中途入退室、携帯メールの使用などは厳に慎むこと。

テキスト

プリント配布による。

参考文献

関係個所で、適宜紹介する。

講義コード	1J310012
講義名	物質と自然のしくみ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1103
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中村 正信	指定なし

担当教員

中村正信

講義の目的

複雑な現代人の生活も自然現象の中で営まれている。医療従事者による、身体ケアの場面や検査・治療・処置の場面においても、自然の法則とは無関係ではない。そこで物質と自然の法則を中心に学び、細かい事項を暗記するのではなくて、前提から導き出す結論に大きな誤りが起こらない力を身に付ける。これは専門科目を学ぶ上で基礎となる。

到達目標

この授業で使用するテキストは、高校で物理をあまり学習しなかった場合でも、自然現象の見方を把握して定性的な理解ができるように書かれたもので、数式をほとんど使わずに説明するよう配慮されている。授業ではできるだけ身の回りの事象を題材に取り上げることにより、身近な現象を見る目と科学する心を持つことを目指す。合わせて、専門科目で具体例を学んだ場合に、その内容が理解できるような基礎力を身につける。

授業計画表

授業計画

1. はじめに、狙い、進め方
2. 物理量と物理法則、単位
3. 力とその性質、万有引力と重力
4. 摩擦力と抵抗、力のつり合い、水圧・気圧
5. 速度と加速度
6. 運動の法則
7. 等速円運動、単振動、運動量と力積
8. 仕事、運動エネルギー、位置エネルギー
9. 熱と温度、内部エネルギー、熱力学の法則
10. 波の性質、音波、光波
11. 電荷、クーロンの法則、電流
12. 回路と起電力、オームの法則
13. 磁石と磁場、電流と磁場、電磁誘導

14. 原子の構造、波か粒子か

15. 原子核の崩壊と放射線、核エネルギー

成績の評価

試験約66%・授業中のミニレポート約30%・平常点約4%

自己学習

高校で物理を履修していない学生は、テキストにあらかじめ目を通し、特に物理量の名称や記号に注意すること。学習においては、わからない箇所をノートに記入し、「どこまでわかって、どこがわからないか」を見直すことを薦める。

履修上の注意

この講義はこれまで物理的な思考法になじんでこなかった学生も対象としている。デモや実験も行う予定であり、積極的に取り組むことを期待する。各講義の中に基本的な演習問題を解く時間をとる。問題の答えを覚えるのではなく、考え方を理解できることが重要である。なおミニレポートは関連することを必ず書いて提出すること。

テキスト

「自然科学の基礎としての物理学」（学術図書出版社）原康夫著

参考文献

学生毎に状況が違うので直接担当教員に相談するのが良い。

例としては次のような本がある。

特に最初から勉強しようとする学生向け

「まるわかり！基礎物理」（南山堂）桑子研著

数式も避けずに勉強しようとする学生向け

「物理学がわかる」（技術評論社）川村康文著

授業用E-mail

nakamura@kansai.ac.jp

講義コード	1J358011
講義名	臨床心理学概論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J1-2401
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 伊東 弘美	指定なし

担当教員

伊東 弘美

講義の目的

対人援助職の基本となる対人関係理解と受容的態度について学ぶ。

到達目標

臨床場面における患者－援助者関係を常に念頭に置き、理論学習よりも自他の理解・気づきに重きを置く。

コミュニケーション及び心理検査については実習を含む。

授業計画表

授業計画

- 1 オリエンテーション：対人援助職とは
- 2 心理的適応・不適応のメカニズム 1) 葛藤仮説
- 3 心理的適応・不適応のメカニズム 2) 精神分析理論
- 4 心理的適応・不適応のメカニズム 3) 防衛機制
- 5 コミュニケーションの定義・分類
- 6 対人援助職のコミュニケーションスキル
- 7 コミュニケーションの障害と病理
- 8 対人関係における知識・理解
- 9 対人関係における共感的理解
- 10 心理検査法
- 11 心理検査法実習
- 12 無意識とコンプレクス
- 13 心理療法
- 14 患者役割行動の心理と治療者
- 15 まとめ

成績の評価

平常点 10%
90

レポート %

自己学習

”自分なら”の視点を持って受講することを期待します。

履修上の注意

毎回、出席票を配布します。

出席票には授業を受けての感想・質問も記入し、次回以降の理解の助けとなるよう活用します。

テキスト

授業時間内にプリント配布。

参考文献

「ナースのための心理学」（金子書房） 岡堂哲夫：編

「心とかかわる臨床心理」（ナカニシヤ出版） 川瀬正裕・松本真理子・松本英夫：著

講義コード	1J416011
講義名	科学の基礎
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1101
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 井本 泰彦	指定なし

担当教員

松本 弘・井本 泰彦

講義の目的

生物・物理・化学の各分野の重要項目について理解を深めることにより、専門科目の学習の基礎を確実なものとする。生物分野では、科学思想および科学の方法について教授し、生物の共通性と多様性を学ぶ。

物理・化学分野においては、高等学校で履修すべき重要項目を基盤にしながらヘルスプロモーション活動との関連に理解を深める。高等学校で履修していない科目がある学生や、理解不足であった学生の受講を望む。

到達目標

- 1.細胞学の歴史と科学の方法が理解できる。
- 2.遺伝子および生殖・発生学の基礎が理解できる。
- 3.専門科目の学習に必要な物理学の基礎が理解できる。
- 4.専門科目の学習に必要な化学の基礎が理解できる。

授業計画表

授業計画

1. 科学と科学の方法
2. 細胞学の歴史と細胞
3. 遺伝子DNAとその複製について
4. 遺伝子からの形質発現の調節
5. 生殖・発生学の基礎
6. 基本的な物理量と単位（質量、加速度、力、重力など）
7. 力の働き（ベクトル、摩擦、仕事、モーメントなど）
8. 圧力（大気圧、血圧、単位、ボイルの法則、分圧）
9. 波の性質（ドップラー効果、超音波）、放射線の基礎
10. 電気（オームの法則、電力、感電、測定機器と人体）
11. 周期表と身近な元素、原子の構造、イオン
12. 分子量、式量、物質量、溶液の濃度

13. 化学変化と化学反応式、酸と塩基、pH
14. 酸化と還元、身近な無機化合物
15. 有機化合物（石油、油脂、炭水化物、タンパク質）

成績の評価

各分野とも、出席・レポート・授業態度の平常点で約30%、筆記試験で約70%とする。

自己学習

毎回の授業には予習をして臨み、復習を行うこと。

履修上の注意

1. 自分のノートを作成し、配布したプリントは整理する。
2. 私語、飲食、携帯電話、居眠りなどは厳禁である。
3. 生物分野は松本が、物理・化学分野は井本が担当する。

テキスト

「スクエア最新図説生物」 （第一学習社）

吉里勝利監修

講義コード	1J417011
講義名	統計学の基礎
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1105
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸村 多郎	指定なし

講義の目的

統計学の基礎について理解できるように講義します。

受講生が統計学の基礎、特に記述統計学を学ぶことで、将来の推測統計学の学習に備えることを目的とします。

さらに、統計学に基づいた医学研究における研究デザインの理解を目的とします。

到達目標

下記講義計画の内容について正確な理解を目指します。また講義後も自立学習が出来ることを目指します。

授業計画表

授業計画

1. 統計学とは（総論，社会における統計学）
2. 統計学とは（医学における統計学）
3. 母集団と標本
4. データの種類
5. 記述統計学
6. 度数分布とヒストグラム
7. 最頻値・中央値・平均値
8. 分布
9. 分散と標準偏差①
10. 分散と標準偏差②
11. 仮説検定
12. 区間推定
13. 統計学に基づいた医学研究における研究デザイン
14. 研究論文から読み解く統計学
15. まとめ

成績の評価

レポート等(80%)、平常点(20%)で総合的に評価します。

自己学習

講義の進行に沿って各自が主体的かつ積極的に学習する習慣をつけて下さい。

履修上の注意

1. 毎回の授業で出席を確認する。
2. 遅刻は3回の累積で1回の欠席とみなす。
3. 配付プリントは原則、再発行しないので紛失しないこと。
4. 平穏な受講環境と円滑な授業進行を行うため、受講生は一定の受講マナー（私語・飲食・携帯電話の禁止,脱帽）を守ること。（詳細は授業中に説明する）
5. 学籍番号順に前詰めで着座すること。

テキスト

特に指定しない。

資料としてプリントを配布します。

参考文献

適宜紹介します。

オフィスアワー

在室時はいつでも。

研究室

診療研究棟4階407

授業用E-mail

tomura@kansai.ac.jp

講義コード	1J421011
講義名	東洋医療の基礎・導入教育
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	GE-1001
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

担当教員

五十嵐 純

講義の目的

この科目は、本学の学びの核となる「東洋医療」についての基礎的理解をすることと、大学での学び方を学ぶことを目的としている。1つ目の目的である東洋医療は、柔道整復や健康指導の核となる人間の全人的理解を基盤にしており、両者の共通点もある。そこで、1年次の入学時にそれらの考え方を教授することで、より幅広い視野で医療や健康指導を理解することをねらいとする。もう1つの目的は、医療や健康指導に興味・関心を持ち、将来への希望に満ち溢れている学生に対し、大学での学びは、受け身ではなく主体的に学び、かつ、探究心を持つとともにやる気を維持することが大事であることを理解させ、これらについて自分で考え、理解し、実践できるようにする事をねらいとしている。

なお、当該科目は、「キャリア教育科目」に指定されている。本学学生が、専門教育を学び資格を取得した上で、自らが卒業後の職業を選択し将来的にその現場で活躍、貢献できるよう当該科目の授業の一部で「人間力」や「仕事力」が身に付くように支援している。

到達目標

東洋医療を理解するとともに自分で考え、理解し、実践できるようになる。
eラーニングを活用できるようになる。

授業計画表

授業計画

1. 関西医療大学の変遷、医療人としての心構え
2. マナーについて SNSとの付き合い方など
3. 大学生としての心得1 資格取得のために
4. 大学生としての心得2 レポートほか文書作成
5. 大学生としての心得3 資料の検索
6. 柔道整復の魅力と動機づけ① 歴史と社会的役割
7. 柔道整復の魅力と動機づけ② 特徴と強み
8. 柔道整復の魅力と動機づけ③ 活躍できるフィールド

9. 柔道整復の魅力と動機づけ④ 関連医療資格との関わり
10. ヘルスプロモーション整復学科と他の学科とのかかわり チーム医療として
11. 東洋医療の知識① 東洋医療の考え方
12. 東洋医療の知識② 東洋医療的な考え方の柔道整復術への応用【講義編】
13. 東洋医療の知識③ 東洋医療的な考え方の柔道整復術への応用【実技編】
14. スポーツと柔道整復 柔道整復師だからできるスポーツ・運動指導
15. 柔道整復師が活躍できるフィールド 接骨院やチームトレーナーとして

成績の評価

レポート50%、eラーニングの受講30%、平常点20%で評価する。
なお、eラーニングの終了を成績評価の条件とする。

自己学習

レポート作成の基本をよく理解し、実際にレポートが書けるようになる。
大学が提供しているe-ラーニングを活用して自己学習する。

履修上の注意

- ・演習科目のため欠席は3回までとなり、それを超える欠席があると留年となる。
- ・遅刻3回で1回欠席とする。
- ・3～5回目の授業は成績評価のレポート作成方法を教える授業になるため必ず出席すること。
- ・eラーニングが終了しないときは不合格となるので注意すること。

テキスト

特になし

参考文献

特になし

オフィスアワー

木曜の昼休み

研究室

診療・研究棟4階 401研究室

授業用E-mail

igarashi@kansai.ac.jp

講義コード	1J474011
講義名	基礎運動学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	人体の構造と機能
科目ナンバリング	J1-2007.T
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 牛島 詳力	指定なし

担当教員

牛島 詳力

講義の目的

広範な運動学 (Kinesiology) の分野から、運動 (機能) 解剖学 (Movement Anatomy) の領域を「人体の構造」、「人体の機能」で学んだ知識をもとに、人体の各関節の運動から、筋収縮を促す神経のはたらき、収縮する筋群、筋収縮に伴って可動する関節の機能や構造について理解を深め、バイオメカニクスの基礎的な知識を身につける。

到達目標

基本的な身体動作・関節運動、その際に働いている筋などを理解できるようになる。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス、運動学とは、関節と運動の力学
2. 関節運動の表し方、姿勢とその異常
3. 運動の制御機構 (運動路と感覚路、反射と随意運動)
4. 関節の構造と機能
5. 筋肉の構造と機能
6. 脊柱・体幹の構造、機能と運動
7. 上肢帯と肩関節の構造と機能
8. 上肢帯と肩関節の運動
9. 肘関節と前腕の構造、機能と運動、レポート課題概要発表
10. 手関節と指の構造、機能と運動
11. 骨盤・股関節の構造、機能と運動
12. 膝関節の構造、機能と運動
13. 足部・足関節の構造、機能
14. 足部・足関節の運動、歩行 (異常歩行含む) 運動
15. バイオメカニクス知識の応用、レポート課題提出期限

成績の評価

出席状況や授業中の態度、提出物や定期試験での成績を総合して評価を行います。

定期試験（40%）＋小テスト合計点（30%）＋授業参加*（10%）＋レポート（20%）
＝総合（100%）

*授業参加（10%）：授業での発言、質問など、教員の主観が含まれることもあります。

追再試験について：学則に定められている通り、何らかの理由で定期試験が受けられなかった者（追試験）や成績不良者（再試験）に対して追再試験を行います。その場合上記成績表のうち定期試験の分が追再試験の点数の換算で置き換えられ、総合成績は60点が上限となります。

自己学習

解剖学、特に筋学（筋の起始、停止部の名称、支配神経、作用など）を復習しておいてください。「人体の構造」と同時進行ですが、それらの知識が既にあるものとして授業を進めてゆきます。またその確認のために筋学の小テストを計10回予定しています。

小テスト出題範囲

①頭・頸部の筋（運動学テキストp154 表8-19）②胸郭の筋（p164 表8-21）腰部の筋（p171 表8-23）③上肢帯の筋（p73 表8-1）④肩関節の筋（p82 表8-3）⑤肘関節の筋（p91 表8-5）⑥手の筋（1）（p103 表8-7）⑦手の筋（2）（p104 表8-7）⑧股関節の筋（p120 表8-10）⑨膝関節の筋（p128 表8-13）⑩足関節の筋（p136 表8-15）

必ずしも授業計画の日程「第何回」とは一致しません、そのつど告知します。

履修上の注意

携帯電話について、授業中は電源を切るかマナーモードに設定しておいてください。緊急の要件がある場合（配偶者の出産、家族の危篤など）については使用を認めますが、事前に必ず申し出てください。

テキスト

「運動学 改訂第3版」齊藤 宏 著（医歯薬出版）

参考文献

「新・徒手筋力検査法」H.J. Hislop, J Montgomery 著（共同医書出版社）

「ボディナビゲーション・ムーブメント」Andrew Biel著（医道の日本社）

オフィスアワー

金曜日昼休み、それ以外は要アポイントメント

研究室

診療・研究棟3階310研究室

講義コード	1J475011
講義名	包帯学 I
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	1 時限
科目分類・分野名	整復実技
科目ナンバリング	J1-3101
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高岸 美和	指定なし

講義の目的

骨折、脱臼、打撲、捻挫等を取り扱う柔道整復師にとって欠かせない技術である包帯を学ぶ。

到達目標

包帯についての総論を理解し、上肢・体幹部に対して、臨床上の目的に合った包帯を施すための基礎的技術を身につける。

授業計画表

授業計画

1. 総論
2. 巻軸帯の基本型
3. 巻軸包帯（指）
4. 巻軸包帯（指・手関節）
5. 巻軸包帯（前腕）
6. 巻軸包帯（肘関節）
7. 巻軸包帯（肩関節）
8. 冠名包帯法 1
9. 冠名包帯法 2
10. 冠名包帯法 3
11. 上肢包帯の復習
12. 試験
13. 冠名包帯法の復習
14. 試験
15. まとめ、応用

成績の評価

授業時間内に実施する試験（90%）と平常点（10%）により評価する。

自己学習

包帯は繰り返し練習すればするほどうまくなるので、既習部位については授業時間内外を問わず、完全にマスターするまで練習を繰り返すこと。また、人の体格は様々なので、なるべく多く

の人を巻いてみる様に心がけること。

履修上の注意

実習時間は白衣を着用すること。

本科目は必修科目であるため、毎回の授業で出欠を確認し、遅刻3回につき1回の欠席とする。
また、テキストの他、授業時に配布されたプリント、包帯は必ず持参すること。

その他の受講上の注意事項については、随時講義時間の中で伝達する。

テキスト

「包帯固定学」改訂第2版（南江堂）
社団法人 全国柔道整復学校協会 監修

オフィスアワー

前期 : 月曜日 (16:40 ~ 18:00)

後期 : 金曜日 (16:40 ~ 18:00)

研究室

診療・研究棟4階 415研究室

授業用E-mail

takagishi@kansai.ac.jp